



VOICE

千代田区議会 自由民主党議員団活動レポート

発行：千代田区議会 自由民主党議員団 〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1 (千代田区役所7F)

あなたの声をお聞かせください!

▶ウェブサイト <http://jimin-chiyoda.tokyo>

▶お電話 03-5211-4320 ▶ファクス 03-5275-6882



戸張 孝次郎



桜井 ただし



小林 やすお



松本 佳子



嶋崎 秀彦



内田 直之



永田 壮一



山田 文夫



池田 ともり



大坂 隆洋



小林 たかや

Liberal
Democratic
Party
of Chiyoda
2019



新年を迎えて決意新たに。

希望に満ちた平成31年の新春を迎え、千代田区議会自由民主党議員団を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、平素より、自由民主党議員団の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、東京は亜熱帯気候にでもなったかを感じる夏でありました。そして、毎週のように台風が日本列島を襲い、地震や水害等、各地域に甚大なる被害をもたらしました。現在においても、困難な生活を余儀なくされている皆様には、一日も早い復興を心よりお祈りを申し上げます。

本区においても、想定外の災害等にも対応できるよう、より一層危機管理体制の充実に向けた取り組みが必要であります。また、この危機管理をはじめ、区政においては、次世代育成支援や保健福祉施策の充実、東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とした施策の推進など多くの課題がございますが、一つひとつ解決に向け取り組んでまいります。

さらに自由民主党議員団をはじめとした区議会では、連合町会長をはじめ区民の皆様と「区民集会」を通じ、「水辺の利活用」をテーマに議論させていただき、平成30年第4回定例会にて「皇居周辺の濠、河川の水質改善を求める意見書」を議決いたしました。オリ・パラに向け皇居周辺の環境美化に取り組んでまいります。

結びに、本年、春には統一地方選挙を控えています。自由民主党議員団に対しまして引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年が、皆様にとって幸せに満ち溢れた明るい一年となりますことを、心からお祈り申し上げます。



自由民主党議員団 幹事長
嶋崎 秀彦

決算特別委員会報告

平成29年度の決算議案審査は、先の定例議会で審査を行いました。が、「生業資金貸付金」の「年度末現在額」と「収入未済額」が、一致していないことに加え、「年度末現在額」にも誤りがあることも明らかになりました。委員会といたしましては、①債権の「決算年度末現在額」を確定し、会計上の処理を行うとともに、区議会に十分説明責任を果たすこと、②貸金残高が誤った原因を解明し再発防止策を示すことを決議し、継続審査となっていました。

本定例議会では、執行機関から真正な債権額、再発防止に対する基本方針が示され、適正な会計処理は今年度末までに行うことが確認されました。また、決算数値自体には、不適切な執行は見られず、「財政健全化判断比率」上も健全であり、採決を行った結果、賛成多数により認定すべきものと決定致しました。なお、決算認定に対して全議員より「附帯決議」が提案され、早期に会計上や債券管理に関する事務処理や、不能欠損処理に至る具体的な事務手続きの確立などを執行機関に強く求め、可決いたしました。

決算特別委員会 委員長 内田直之



代表質問



嶋崎秀彦



行政サービスと財政運営について

問: 人口増加に伴い、高齢者や子育て世代への施策拡充が重要と考える。今後の区の見解は。

区の答弁

高齢者福祉や子育て分野を中心に、将来を見据えた様々な施策を展開し、人口増に伴う施設や事業の規模の拡充については、基金を有効に活用しながら、区民の期待に応えていきたい。

また、人口増に伴う区民のコミュニティのあり方については、様々な関連事業の進め方について、この1年丁寧に、広く意見を聞きながら進めていく。



景観行政団体移行について

問: 水の都「江戸」の姿を今に伝える水辺空間の再生は、都市景観上重要であり、早急に景観行政団体へ移行すべきであるが、区の見解は。

区の答弁

これまで、都との調整に時間を要していたが、今般、協議が整う見込みとなり、協議終了後、景観行政団体になる予定であり、現時点では、平成31年4月以降を目途としている。

外濠公園総合グラウンドについて

問: 区民体育大会は2年連続雨によるグラウンド状態不良のため中止となった。その準備の労力が無駄となり、大会準備のノウハウが継承できない事態となっている。このように水はけが悪く利用ができない日数が多い。今後の区の対策は。

区の答弁

区立で唯一のかけがえのない屋外運動場であり、区民がよりスポーツに親しめる環境を整備し、通年利用・多目的利用出来るようにする。

障害者福祉センター「えみふる」の運営と障害者への対応について

問: ①3障害の総合的なサービスを展開するうえで、安全で効果的な運営ができたのか。②利用者のニーズが変化している中、これまでどのような対応を図ってきたのか。③障害者本人とその家族が安心できる態勢をどのように整えていくか。

区の答弁

①開設当初から数年間は試行錯誤の繰り返しで、現在は、機能と安全性が向上し、福祉サービスの拠点として質の高いサービスの提供に努める。

②利用者懇談会や事業実施後のアンケートなどで、本人やその家族のニーズの把握に努める

③上記を踏まえ、区と管理者である社会福祉法人とは、毎月協議を重ね、利用者のニーズに応じた事業展開を図っている。

▶障害者福祉センター「えみふる」



一般質問

小林たかや



職員体制と採用について

問: ①幼稚園正規教諭の計画的採用・人事異動目的は。

②人口増で増えた区の業務量。AI活用により対応を。

区の答弁

①所定人員を計画的に確保。8園の運営で組織活性化。

②積極的に研究する。

区広場の維持管理について

問: 秋葉原駅東西広場の透水性舗装は破損しやすく維持費用も高い。見解は。

区の答弁



西口は舗装材を見直す。費用抑制の工夫も実施。

◀破損した透水性・保水性コンクリート板、斑デザインなく補修跡、アスファルトの色で黒くなっている。

池田ともりのり



安全安心な千代田を目指して

問: 還付金など特殊詐欺の被害を未然に防ぐために自動通話録音機を無料で配布、設置するサービスが始まっている。設置状況は。

区の答弁

今年度中には650件の設置を目標とし特殊詐欺被害ゼロの街を目指す。

問: 小中高生が参加する避難所訓練を実施したらどうか。

区の答弁

家庭内での防災意識も高まり、訓練参加にも若い世代やマンション住民の方が増えることを期待している。今後も推進していく。

配電地上機器を活用した情報発信へ

問: 一部の防災行政無線スピーカーには文字表示盤が設置されているが現状の課題は。今後災害情報を多言語や映像で伝えられる配電地上機器のデジタルサイネージを活用してはどうか。東京2020大会に向けて気運醸成にもつなげては。

区の答弁

英語表記等、他の災害情報伝達手段の活用を検討している。災害情報のほか幅広い情報配信が考えられるデジタルサイネージの活用は今後も検討していく。

山田丈夫



本区の水害対策について

問: ①避難所の一部は浸水想定区域内である。災害別に避難場所を変更すべき。②荒川洪水ハザードマップの作成時期と周知方法は。③河川氾濫時、避難情報の伝達方法は。

区の答弁

①浸水時間、期間に応じた周知、対応に努める。なお、荒川の大規模氾濫時の具体的な避難場所等については現在、避難想定者数も踏まえ検討中。

②ハザードマップを作成中。来年度を目途に区内全戸に配布する。

③避難勧告発令時、ハザードマップの情報を的確に使用し、防災行政無線やSNS・ラジオ等で避難方法を周知する。



永田壮一



地球温暖化対策について

問: CO2温暖化には懐疑的な説も多く、以前は氷河期が来るとまで言われていた。温暖化は都市の排熱、水蒸気による影響が大きく、景気が良くなると都市部は温暖化する。世界のCO2排出量半分の米中が削減に消極的な現状でパリ協定は成果なしで幕引きすると見られている。

地球温暖化対策は「経済と環境の調和」を考え、より実質的な取り組みをするべきだ。長期的には再生可能エネルギーと原子力によるエネルギーミックスが現実的な中で本区も国民への理解促進に関わっていくべきだ。

区の答弁

本区では地球温暖化対策に平成30年度2.5億円予算を計上している。地球温暖化には様々な科学的側面があるが、世界的な取り組みに合わせて国や都と歩調を合わせていく。

また国の進めるエネルギー政策の情報提供、理解促進に努める。



大坂隆洋



高齢者施設の整備について

問: 平成27年度に整備計画を策定しているが、その通りに進んでいない。特養は多くの方に待機していただいている現状があり、早急な改善が必要。また、区内人口の増加に伴う計画の再整備も必要と考える。

区の答弁

高齢者福祉施設はサービスの需要見込みに対して施設供給が不足している。二番町の国有地を活用した施設が開設されれば待機状態は大幅に改善すると考えている。今後人口推計に基づき需要推計を行い、改めて計画の整理を行う。

新公会計制度について

問: 平成28年度から統一的な財務諸表が決算で示されるが、非常に見づらい。上場企業の財務諸表は、わかりやすく作られており、それらを参考にして区民にわかりやすい決算書を作成すべき。

区の答弁

指摘いただいた点も踏まえ工夫を行うとともに、有効な活用方法も研究していく。

桜井ただし



外国人観光客への現在地表示について

問: 3,000万人を超える旅行者が日本の魅力を見つけたいと神田や麹町の路地裏にある名所、飲食店にまで足を運ばれる方も多くなっている。このような中、来街者にとってやさしく親切な現在地表示をする手段を早急に考える時に来ているが住居表示版の整備は74.1%と千代田区全域に至っていない。このことについて区の見解と今後の対策はどうか。せめて区関連施設や関連物には、住所地の多言語表示があっても良いと思うが考えを問う。また、東京2020に向けた取り組みはどこまで進んでいるのか。

区の答弁

住居表示実施地区と未実施地区が混在している現状は好ましい状況とは言えないが、取り扱いは慎重かつ丁寧な対応が必要であると認識している。議員ご指摘の通り区関連施設などへのわかりやすい表示は観光や災害対策に役立ち、本区を訪れる来街者に対しても、今後求められるであろう区のおもてなしのサービスであると認識している。これまでの経緯を踏まえ、区有施設等どのような工夫ができるのか検討していく。また、2020年に向けスタッフなどによる誘導なども行う予定。